



# ちょっといい話

シリーズ⑨

## 缶バッチづくりでの

## 「ふれあい」は最高!

～思いやりとやさしさがいっぱいカーニバル～

10月19日の日曜日は素晴らしい秋晴れで、絶好のリバーサイドカーニバル日和でした。「道のまち笠松」では、ふれあいコーナーの一角に、一昨年に引き続き2度目の出店をしました。この道の店の店では、子どもたちは「缶バッチ作り」をし、大人は「道のまち笠松に関するアンケート」に答えてもらいました。

子どもたちの作る缶バッチは、自分で図柄を選べるように工夫しました。そのため、500個用意した缶バッチは、全部なくなってしまいました。子どもたちの中には、自分の缶バッチが出来上がると「ありがとうございます。もう一つ作ってもいいですか?」と、尋ねる子がいます。理由を聞くと「弟の分を作りたいの」「友達にあげたいから」という思いやりにあふれた答えが返ってきました。もちろん、「いいですよ」と笑顔で言うと、とてもうれしそうに作り始めます。

もう一つ、うれしい姿に接することができました。



缶バッチ作りに夢中な子どもたち

缶バッチを作った子どもが「ありがとうございました」と言って、ブースを去ろうとした時、その子のお母さんも「ありがとうございました」と言って、一緒に頭を下げられました。こういうさわやかな姿の親子が増えてくることを心から願いたいですね。

身近で「ちょっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。  
☎388-3926 FAX388-3233  
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

### かきまつの民話「昔むかし」

### ご神木のお泊り②

そのご神木を上流北方村より三隻、犬山より四隻で見送り、円城寺からは、村中の洗い清められた船、五十隻ばかりで出迎えた。円城寺の港ではしめ縄を張り、御神酒、鏡餅を供え、無事、お泊りになった。

あくる日は、笠松に昼、お休みになり、その夜は下流の起でお泊りになるはずであった。

十一月の十六日。

円城寺の下流笠松では、ご神木のお守りを預かった村役人、村井林兵衛と高橋勘三郎は柳原の下堤を歩いて、

「林兵衛、この大役をぶじ、果たしたいものよなあ。」

「おれはな、ほんの小さい頃、一度、見たが、すごい人出だから、気を使わんと大事になるぞ。勘三郎。」

「こうして、下堤も、上堤も、河原も何の異常もない。伊勢からの付き人や、円城寺の



送り人、起の迎え人のごちそうもぬかりないようそろえたし、飾りつけも終わった。天気もいいし、はやお、明日が来んかのお。待ちどおしいわい。」

明け方、林兵衛の家の雨戸を激しくたたいて、

「林兵衛、起きろ。仕度しろ。わしじや。」

その声は勘三郎とわかった。雨戸を開けるとこれはどうしたことが、雪まじりの雨が吹きこんだ。

「この風だ、林兵衛。木曾川も荒れているぞ。どれが岩か瀬かわからなくなつとるぞ。」

「勘三郎、村中の若い衆で警戒にあたらせないで、ご神木に傷つけてしまうぞ。」

(つづく)